

ヒナノキンチャク

Polygala tatarinowii Regel

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

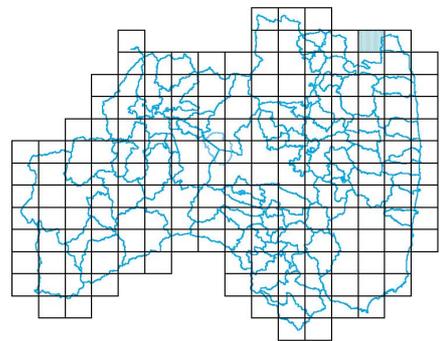
【形態】 一年草。茎は高さ7～15cm。葉は卵円形または楕円形で長さ1～3cm、1～2対の側脈があり、縁は全縁で細毛があり、基部は次第に細くなって長さ2～8mmの柄に流れる。花は長さ8cmに達する総状花序に多数つき、淡紫色で長さ約2mm。さく果は扁円形で径約3mm、翼がない。

【分布】 東アジアおよび東南アジア。日本では東北(福島)、関東、中部、中国、四国、九州に点々と分布し、原野や山麓に生える。福島県が日本の北限である。

【県内の分布、生育状況】 これまでに浜通り南部のいわき市、中通りの滝根町、郡山市、白河市、西郷村で採集された記録がある。今回の調査では再確認ができなかった。

【生育に影響を与えている要因】 不明

【特記事項】 生育地が再発見された場合、個体群の生育環境を良好に維持することが望ましい。



絶滅危惧 類 カエデ科

クロビイタヤ

Acer miyabei Maxim. var. *miyabei*

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全国的にも生育地や個体数が少ない。県内でも産地がごく限られている。

【形態】 落葉高木。葉柄は長さ4～20cm。葉身はほぼ五角形、長さ5～12cmで3～5中裂し、基部は心形、裂片はさらに羽状に1～2浅裂し、裂片の先は円形ないし鈍形、細鋸歯はなく、両面に短立毛、縁に短毛を密生する。花は雄花と両性花があり、長さ6～8cmの複総状花序に10個内外がつく。分果は長さ約3cmで密毛があり、果翼は水平に開く。県内に多いイタヤカエデ類は葉の表面に毛がなく、葉の裂片はふつう全縁で鋭頭である。変種のシバタカエデは分果に毛がないことで区別される。

【分布】 日本固有で北海道、東北(岩手、秋田、福島)、関東(群馬)、中部(長野)の温帯山地の湿った林に生える。

【県内の分布、生育状況】 会津の尾瀬および館岩村の数カ所を報告があるのみである(馬場 1990)。

【生育に影響を与えている要因】 産地局限

【特記事項】 現存する個体群の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【主要文献】

馬場 篤．1990．福島県新産植物と希産植物の新産地(5)．フロラ福島8：4．

